

春日村

の農あるのみ。寺寶は古畫寶の八祖の像、古佛の觀世音、古寫の經あり、寶頭盧の古像ありて、參詣人常に不斷供物の諸品座前に堆し、六地藏の古石像あり、寶徳二の文字見ゆ、其他は磨滅して讀むに由なし。舊除地高一石二斗八升、維新の際土地す。

【岡部山明清寺】 境内官有地、東西十九間、南北十六間、面積一反十二歩、曹洞宗埴科郡松代町長國寺末派なり。春日組向反にあり。元祿九年岡部氏建立す。開山長國寺十四世僧靜雲。藤澤寺遊行二十四世不行修行の記に、大永二年七月二十三日野澤金臺寺を去り春日の明清寺と云ふ禪院を宿所となし、移り云々あり。該古跡字に存す。

【飯頼山廣養寺】 境内官有地、東西十二間、南北十三間、面積五畝八歩、曹洞宗康國寺の末派なり。春日新町組にあり。正徳元年創立、開山康國寺六世僧芳隨なり。

【雲居山玉泉院】 境内官有地、東西十五間、南北十五間、面積七畝十五歩、曹洞宗矢島寶泉寺末派なり。寶曆四年創立、開山僧宥道

從前眞定寺と號す。後地頭福津村松平氏の牌所となりて改稱す。玉泉は松平氏の法號なり。

學校

【公立小學成章學校】 春日組康國寺を假用す。本村四組合併の生徒なり。生徒男百十六人、女十六人。元資金貳千五百九圓六拾四錢。町村會所

【小區投所】 春日組中央二十二番地、櫻井新助宅を假用す。

病院 無之

電線 無之

郵便所 無之

製絲場 無之

大工場 無之

古跡

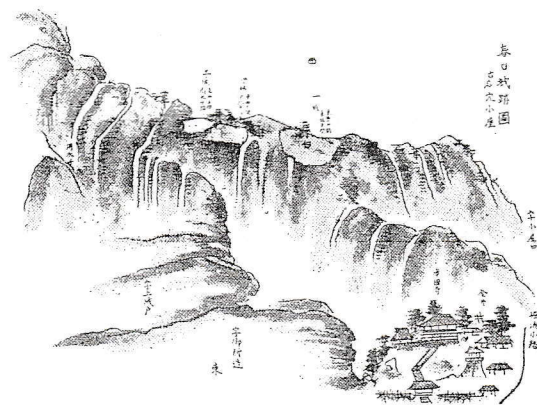
【春日穴小屋城跡】 春日城は甲陽軍鑑に、穴小屋と見えて、春日氏代々の居城なり。春日の名の起るや。伊勢風土記に、猿田彦神、伊勢に入るに及て、伊勢津彦、春日部の二神大風を起して、信濃に去る由を記し、日本紀、景行天皇五十五年彥狹島王、春日穴昨村に至りて薨し給ふとあるを合せ考れば、春日神を奈良山に祭るより前に春日の名の聞ゆるは、此春日神

は春日部神ならむ。本國住人東鑑に、春日部三郎兵衛尉、太平記南方に同兵衛藏人家綱、治部少輔時賢あるは、蓋神孫なるか。居館は今金城山康國寺の境内なり。方二町、三方壘二重あり、濠を廻らし、堀端小路の名あり。南を御新造と號し、上城戸、小屋口、馬場の稱あり。寺中金井と稱する大井堀抜の麗泉にて、金井小路の稱あり。文政中近地より唐宋錢百餘貫を掘出す。本城は寺後の山上にして、蓼科山麓より山脈細小路、湯澤、二澤の中間に延び、城地に至りて一層高く、四條となり、良の尾先、三條の堀切あり。東の尾先殊に長く、堀切三條あり、守兵を置べし。此間に路ありて登るに、南の尾先に三條の堀切、巽の尾先に一條の堀切あり。此澤中に井ありて石を疊て用水とす。四岐の嶺上を一ノ郭とす、東西十間、南北二十間。秋葉社あり。南に低下して又高く一郭あり、東西五間、南北十間。夫より一層高く一郭あり。此間堀切二條、東西十間、南北十五間。南に大土壘あり、三ノ城と號す。即ち本郭なり。又低下

して堀切三條、石壘あり、總構、嶺上五町。北西は嶮峻歩を進むべからず。此邊諸器械の碎けたる及び矢の根等の出るあり。天正中良の山崩れて、精巧の五輪塔九基出たり。春日氏の諸書に載するもの、承久記に、春日刑部三郎貞幸、其子小三郎氏幸見ゆ。東鑑に、春日小次郎貞親、同三郎、同刑部承あり。大塔物語、應永七年春日伊豆入道大椿。諏訪上宮神長官文書、文明二年春日代官長城新兵衛道光同十三年春日代始貞重、長享二年春日左衛門大夫貞重、大系圖に小笠原清宗女、春日妻と見ゆ。甲陽軍鑑、信長記春日氏あり。甲陽軍鑑、信立切取城の中に、穴小屋あれば天文に至り、武田氏の爲に族滅せしか。又西の澤中、湯澤に對し、鹿曲川に添て、一平地字太郎別當と稱す。南に二澤ありて城山の奥に通ず。蓋し春日太郎なる者、武者所の別當となりて、居住せし所なるか。天文中、菅田下野守信守、武田氏に屬し、大に家聲を興し、當城を併せ領す。永祿に至り、其子依田右衛門佐信蕃、其地利の宜しきを以て移し住す。

天正十年武田氏滅ぶるに及びて信
藩、織田氏を避て遠州に隠る。織
田氏明智が爲に滅
ぶ。信藩大に兵を
起して本郡に入
る。北條氏直六萬
兵を卒ひ本郡を襲
ひ、信藩が春日城
を攻む。信藩能戦
て不屈、氏直捨て
甲州に入る、信藩
糧道を斷て通せ
ず、氏直困じて國
に歸る。信藩本郡
を復し、出て前山
城に入り、田ノ口
城に移る。信藩穴
の名を忌て、三澤

小屋と稱するは、諏訪上下社あり
て御射山あり。諏訪文書に御射山
を三澤山と書す、今湯澤の奥に三
澤山あり、是なり。又本根の城た
るを以て、芦田小屋と稱す。同十
一年信藩、岩尾城を攻て戦死す。
其子松平修理大夫康國、爲に田ノ
口の館を寺と爲して、蕃松院と號
す。康國十八年上州石倉に卒す。
弟右衛門大夫康眞、當館を寺と爲



して、康國寺と號す。皆其本根を
忘れず、追福をなすなり。或は穴
小屋は茨小屋
と云は誤なり
北條氏直大兵
を以て之に當
り、出沒して
敵を討つ、氏
直成功の難き
を計り捨て、
甲州に入る。
信藩糧米を奪
て不通、氏直
終に東歸す。
眞田昌幸、芦
田小屋の麓に
來り、信藩に
會して和を談

す等、芦田家記に載す。又三澤山
湯澤の奥にあり。麓に押出しの城
窟ありて、之れを三澤小屋、芦田
小屋なりと云ふも非なり。信藩の
英雄何ぞさる深谷に屈居せん、皆
出沒して敵を欺き討の地にて、穴
小屋の稱は穴咋の轉にて、信藩穴
の名を忌て、芦田小屋、三澤小屋
と自稱せしは、城北に小屋口の名
あるにても明瞭なる事、論を待た

ざるなり。(上圖参照)

【小倉城跡】 岩下組より午の方
一里十町、小倉澤北の山上にあ
り。山脈蓼科嶽より連り、此所に
至りて一層高く、北に細小路川を
繞らし、峻峻歩を進めがたし。一
平地の中間を掘て、三方壘の如く
東一方に開けて東西二十間、南北
十間、巨石若干あり、皆軍用に充
るなり。一ノ切石長九尺、幅五尺
高三尺、西は土に埋む。何用たる
を不知。一段低き
平坦の所あり、即
ち二ノ郭なり。東
は嶺上狹迫歩がた
し、三町にして、
南北五間、或は十
間數段あり、皆兵
を置べし。城より
十町にして山尾盡
く。本郭より東南
を臨めば、佐久一
郡一瞬上にあり。
城用の水は小倉の
澤中よりす。谷に
入て五町、平地三
所あり、藏屋敷と稱す、殘礎あり。
此所糧米を置しなり。城の南北の



嶮岩に數窟あり、女兒又兵を置べ
し。是則ち天正十年依田信藩、遠
州に潜伏し、妻子屬從を隠し、後
北條氏直と大に戦、出沒して敵を
退けし所なり。勝負澤の字も該時
の戦地なり。小倉は小谷にて一小
谷の稱なり。(下圖参照)

【大小屋城跡】 一名押出シ城、
春日組より午の方三里、蓼科山麓
三澤山下の、山上の平地にして
東西二町、南北一町、壘、堀切あり。
山腰の石巖に一大窟
あり、方三間。中に湧
泉二所あり、其他窟
多し。天正十年依田
信藩、北條氏直の大
兵と戦ひ、出沒して
敵を討し地なり。按
に三澤の名は、本村
に諏訪上下社ありて
御射山を三澤山と書
るは、諏訪文書に多
く見ゆ。此邊草野中
より、多く矢の根を
出だす。(圖有次頁上)

【茨小屋窟】 小倉
城北の山腹、岩石峻峻、雜樹荆棘鬱
密たる中にあり。茨小屋の名之に